

〔今昔物語二十七〕冷泉院水精成入形被捕語 第五

今昔陽成院ノ御マジケル所バ、二條ヨリハ北、西ノ洞院ヨリバ西、大炊ノ御門ヨリハ南油ノ小路ヨリハ東二町ニナム住セ給ケルニ、院ノ不御サデ後ニハ、其ノ冷泉院ノ小路ヲバ開テ、北ノ町ハ人家共ニ成テ、南ノ町ニゾ池ナド少シ残テ有ケル。

〔大鏡太政大臣忠平〕つねに此三人の大臣○忠平子實、師輔、師尹たちのまいらせ給ふれうに、小一條のみなみかんでのこうちには、いしだ、みをぞせられたりしが、まだ侍るぞかしむなかだの明神おはしませば、洞院うしろのつじよりおりさせ給ひしに、あめなどのふる日のれうとぞうけだまはりしおほかたその一町は人まかりあるがざりき、いまはあやしき物もうま車にのりつゝみじみじとあるき侍るはとよ、むかしのならびにいとかたじげなくこそみ給ふれ。

〔今昔物語二十八〕歌讀元輔賀茂祭渡一條大路語 第六

今昔清原ノ元輔ト云フ歌讀有ケリ、其レガ内藏ノ助ニ成テ、賀茂ノ祭ノ使シケルニ、一條ノ大路渡ル程三〇中略此ノ大路ハ極テ石高シ、亦馬ノ口ヲ張タレバ、歩バムト思フ方ニモ不歩セズシテ此引き轉ガス、然レバ我ニモ非デ倒レム馬ヲ惡ト可思キニ非ズ、

〔平家物語一〕でんかののりあひ

其時の御せつろくは、松殿○藤基房原にてぞましくける東洞院御所より、御さんだい有けり、有はう門より入御有べきにて、東洞院を南へ、大炊のみかどを西へ入御なるに、すけもり朝臣、大炊のみかどゐのくまで、殿下の出御にはなつきに參會まづりあふ。

〔徒然草上〕鳥羽のつくり道は、鳥羽殿たてられて後の號にはあらず、昔よりの名なり、元良親王元日の奏賀の聲はなはだ殊勝にして、大極殿より鳥羽のつくり道まで聞えけるよし、李部王明親重王の記に侍るとかや、